

○男性

(平成20年3月末、単位：千人)

			加入期間 [ (年以上) ~ (年未満) ]								合計	割合	
			～5	5～10	10～15	15～20	20～25	25～30	30～35	35～40			40～
歳以上	～	歳未満										(%)	
15	～	20	133								133	0.6	
20	～	25	1,181	117							1,298	5.8	
25	～	30	1,329	1,067	165						2,560	11.4	
30	～	35	398	1,187	1,332	259					3,175	14.1	
35	～	40	160	292	1,093	1,479	213	0			3,236	14.4	
40	～	45	82	108	201	954	1,163	217	0		2,725	12.1	
45	～	50	56	64	114	220	787	983	195	1	2,419	10.7	
50	～	55	67	50	82	132	200	698	785	264	2	2,281	10.1
55	～	60	98	84	79	130	146	221	612	945	370	2,685	11.9
60	～	65	121	82	60	75	77	86	129	352	549	1,531	6.8
65	～		14	41	36	36	32	30	37	49	225	500	2.2
合計			3,639	3,091	3,160	3,284	2,617	2,237	1,759	1,610	1,146	22,544	
割合 (%)			16.1	13.7	14.0	14.6	11.6	9.9	7.8	7.1	5.1		100.0
平均年齢			42.6歳										

○女性

(平成20年3月末、単位：千人)

			加入期間 [ (年以上) ~ (年未満) ]								合計	割合	
			~ 5	5 ~ 10	10 ~ 15	15 ~ 20	20 ~ 25	25 ~ 30	30 ~ 35	35 ~ 40			40 ~
15	~	20	99								99	0.8	
20	~	25	1,205	68							1,273	10.6	
25	~	30	977	833	62						1,872	15.6	
30	~	35	292	685	668	75					1,720	14.3	
35	~	40	196	288	434	501	50				1,469	12.2	
40	~	45	173	243	232	276	308	40			1,274	10.6	
45	~	50	144	221	227	207	189	202	38		1,228	10.2	
50	~	55	102	159	188	193	165	147	143	32	1,128	9.4	
55	~	60	73	119	151	208	210	165	128	123	1,207	10.0	
60	~	65	40	43	66	88	99	85	59	48	564	4.7	
65	~		8	15	22	30	31	30	20	16	192	1.6	
合計			3,310	2,674	2,050	1,578	1,052	670	388	219	85	12,026	
割合 (%)			27.5	22.2	17.0	13.1	8.7	5.6	3.2	1.8	0.7		100.0
平均年齢			40.1 歳										

## (3) 標準報酬の分布

(平成20年3月末)

	男性(1種)		女性(2種)		計	
	千人	割合 %	千人	割合 %	千人	割合 %
万円						
9.8	177	0.79	237	1.97	415	1.20
10.4	21	0.09	82	0.68	103	0.30
11.0	38	0.17	154	1.28	193	0.56
11.8	77	0.34	267	2.22	344	1.00
12.6	78	0.34	325	2.70	402	1.16
13.4	113	0.50	422	3.51	535	1.55
14.2	132	0.59	475	3.95	608	1.76
15.0	262	1.16	631	5.25	894	2.59
16.0	268	1.19	661	5.50	929	2.69
17.0	319	1.42	670	5.57	989	2.86
18.0	405	1.80	687	5.71	1,093	3.16
19.0	409	1.82	647	5.38	1,057	3.06
20.0	881	3.92	1,018	8.46	1,900	5.50
22.0	1,166	5.19	1,120	9.31	2,287	6.62
24.0	1,282	5.70	928	7.72	2,213	6.40
26.0	1,447	6.43	782	6.50	2,231	6.45
28.0	1,360	6.05	578	4.80	1,940	5.61
30.0	1,438	6.40	503	4.18	1,945	5.63
32.0	1,253	5.57	349	2.90	1,605	4.64
34.0	1,152	5.12	269	2.24	1,424	4.12
36.0	1,139	5.07	230	1.91	1,372	3.97
38.0	1,210	5.38	200	1.66	1,413	4.09
41.0	1,341	5.96	198	1.65	1,543	4.46
44.0	1,087	4.83	124	1.03	1,215	3.51
47.0	891	3.96	82	0.68	977	2.82
50.0	826	3.67	90	0.75	919	2.66
53.0	609	2.71	43	0.36	654	1.89
56.0	506	2.25	35	0.29	542	1.57
59.0	439	1.95	38	0.32	479	1.39
62.0	2,158	9.60	184	1.53	2,348	6.79
合計	22,485	100.00	12,026	100.00	34,570	100.00
標準報酬月額 の平均	356,597	円	229,030	円	312,258	円
特記事項	計は坑内員・船員を含み、任意継続は含まない。					
統計調査の方法	全数統計					

4. 積立金の運用状況について

○資産構成（時価ベース）

（平成19年度）

区 分		金 額	構 成 割 合																																						
		億円	%																																						
預 託 金		219,462	16.5																																						
市場運用分		843,604	63.5																																						
財投債		265,864	20.0																																						
承継資産の累積利差損		△27,119	—																																						
年度末積立金	承継資産の損益 を含まない場合	1,328,930	100.0																																						
	承継資産の損益 を含む場合	1,301,810	—																																						
運用利回り	承継資産の損益 を含まない場合	△3.29 %																																							
	承継資産の損益 を含む場合	△3.54 %																																							
特 記 事 項	<p>○年金積立金管理運用独立行政法人においては、厚生年金分、国民年金分、旧年金福祉事業団から承継した資産（承継資産）を合わせて一体として運用を行っている。これら全体の運用資産の平成19年度末の時価総額及び構成割合は次のとおり。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>国内債券</td><td>855,237億円</td><td>(71.34%)</td></tr> <tr><td>国内株式</td><td>137,923億円</td><td>(11.50%)</td></tr> <tr><td>外国債券</td><td>96,641億円</td><td>(8.06%)</td></tr> <tr><td>外国株式</td><td>109,057億円</td><td>(9.10%)</td></tr> <tr><td>短期資産</td><td>9億円</td><td>(0.00%)</td></tr> <tr><td>合 計</td><td>1,198,868億円</td><td>(100.00%)</td></tr> </table> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">（参考）左記のうち市場運用分</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>国内債券</td><td>569,443億円</td><td>(62.37%)</td></tr> <tr><td>国内株式</td><td>137,923億円</td><td>(15.11%)</td></tr> <tr><td>外国債券</td><td>96,641億円</td><td>(10.58%)</td></tr> <tr><td>外国株式</td><td>109,057億円</td><td>(11.94%)</td></tr> <tr><td>短期資産</td><td>9億円</td><td>(0.00%)</td></tr> <tr><td>合 計</td><td>913,073億円</td><td>(100.00%)</td></tr> </table> </td> </tr> </table> <p>○承継資産に係る損益の厚生年金・国民年金への按分は、厚生年金・国民年金の積立金の元本平均残高の比率により行っている。</p> <p>○時価評価の方法は、市場運用分の国内債券、国内株式、外国債券、外国株式については年度末の市場価格（運用手数料控除後）、財投債については簿価（償却原価法）である。</p>			<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>国内債券</td><td>855,237億円</td><td>(71.34%)</td></tr> <tr><td>国内株式</td><td>137,923億円</td><td>(11.50%)</td></tr> <tr><td>外国債券</td><td>96,641億円</td><td>(8.06%)</td></tr> <tr><td>外国株式</td><td>109,057億円</td><td>(9.10%)</td></tr> <tr><td>短期資産</td><td>9億円</td><td>(0.00%)</td></tr> <tr><td>合 計</td><td>1,198,868億円</td><td>(100.00%)</td></tr> </table>	国内債券	855,237億円	(71.34%)	国内株式	137,923億円	(11.50%)	外国債券	96,641億円	(8.06%)	外国株式	109,057億円	(9.10%)	短期資産	9億円	(0.00%)	合 計	1,198,868億円	(100.00%)	<p style="text-align: center;">（参考）左記のうち市場運用分</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>国内債券</td><td>569,443億円</td><td>(62.37%)</td></tr> <tr><td>国内株式</td><td>137,923億円</td><td>(15.11%)</td></tr> <tr><td>外国債券</td><td>96,641億円</td><td>(10.58%)</td></tr> <tr><td>外国株式</td><td>109,057億円</td><td>(11.94%)</td></tr> <tr><td>短期資産</td><td>9億円</td><td>(0.00%)</td></tr> <tr><td>合 計</td><td>913,073億円</td><td>(100.00%)</td></tr> </table>	国内債券	569,443億円	(62.37%)	国内株式	137,923億円	(15.11%)	外国債券	96,641億円	(10.58%)	外国株式	109,057億円	(11.94%)	短期資産	9億円	(0.00%)	合 計	913,073億円	(100.00%)
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>国内債券</td><td>855,237億円</td><td>(71.34%)</td></tr> <tr><td>国内株式</td><td>137,923億円</td><td>(11.50%)</td></tr> <tr><td>外国債券</td><td>96,641億円</td><td>(8.06%)</td></tr> <tr><td>外国株式</td><td>109,057億円</td><td>(9.10%)</td></tr> <tr><td>短期資産</td><td>9億円</td><td>(0.00%)</td></tr> <tr><td>合 計</td><td>1,198,868億円</td><td>(100.00%)</td></tr> </table>	国内債券	855,237億円	(71.34%)	国内株式	137,923億円	(11.50%)	外国債券	96,641億円	(8.06%)	外国株式	109,057億円	(9.10%)	短期資産	9億円	(0.00%)	合 計	1,198,868億円	(100.00%)	<p style="text-align: center;">（参考）左記のうち市場運用分</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>国内債券</td><td>569,443億円</td><td>(62.37%)</td></tr> <tr><td>国内株式</td><td>137,923億円</td><td>(15.11%)</td></tr> <tr><td>外国債券</td><td>96,641億円</td><td>(10.58%)</td></tr> <tr><td>外国株式</td><td>109,057億円</td><td>(11.94%)</td></tr> <tr><td>短期資産</td><td>9億円</td><td>(0.00%)</td></tr> <tr><td>合 計</td><td>913,073億円</td><td>(100.00%)</td></tr> </table>	国内債券	569,443億円	(62.37%)	国内株式	137,923億円	(15.11%)	外国債券	96,641億円	(10.58%)	外国株式	109,057億円	(11.94%)	短期資産	9億円	(0.00%)	合 計	913,073億円	(100.00%)				
国内債券	855,237億円	(71.34%)																																							
国内株式	137,923億円	(11.50%)																																							
外国債券	96,641億円	(8.06%)																																							
外国株式	109,057億円	(9.10%)																																							
短期資産	9億円	(0.00%)																																							
合 計	1,198,868億円	(100.00%)																																							
国内債券	569,443億円	(62.37%)																																							
国内株式	137,923億円	(15.11%)																																							
外国債券	96,641億円	(10.58%)																																							
外国株式	109,057億円	(11.94%)																																							
短期資産	9億円	(0.00%)																																							
合 計	913,073億円	(100.00%)																																							

5. 財政再計算における将来見通しとの比較

(1) 収支状況の比較 (平成19年度)

	収 入					支 出				収支残	年度末 積立金
	保険料	運用収益	基礎年金 交付金	その他	計	給付費	基礎年金 拠出金	その他	計		
	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円
実績 (基金代行部分除く)	22.0	1.7	1.9	10.6	36.1	22.3	12.6	0.2	35.1	0.9	130.2
[時価ベース]		[△4.9]			[29.6]					[△5.6]	
実績推計 〔将来見通しとベース をそろえた実績値 -特記事項参照 〕 [時価ベース]	22.8	[△3.4]		5.2	[24.7]	21.4	12.6	0.1	34.2	[△9.5]	[164.4]
将来見通し (平成16年財政再計算)	22.6	4.0		4.7	31.2	22.0	11.5	0.2	33.8	△2.5	158.3
差の主な要因	・被保険者数の増加 (見通しより8%弱増加) ・賃金上昇率の低下 (平成15年度以降の累積が見通しより7%程度低下)	・運用利回りの低下 (見通しより低下、2.51% →△3.54%)		・基礎年金拠出金に係る国庫負担分			・拠出金算定対象者数の増加 (見通しより5%程度増加)				
特記事項	<p>○実績推計の作成にあたっては、</p> <p>①基礎年金交付金(1.9兆円)を収入支出の両面から控除し</p> <p>②保険料に厚生年金基金に係る免除保険料(0.9兆円)を加え、給付費に厚生年金基金の代行分(1.2兆円)及び政府負担金(0.1兆円)を加え職域等費用納付金(0.3兆円)を控除し</p> <p>③その他収入から積立金より受入(4.0兆円)、解散厚生基金等徴収金(0.6兆円)、職域等費用納付金(0.3兆円)、独立行政法人福祉医療機構納付金(0.5兆円)を控除し、その他支出から政府負担金(0.1兆円)を控除し</p> <p>④積立金に厚生年金基金の最低責任準備金等(26.9兆円)、国庫負担繰延額(4.0兆円)を加え</p> <p>⑤運用収入に④に係る運用収入(1.5兆円)を加えた。</p> <p>⑥④の積立金にさらに独立行政法人への出資金のうち、将来の給付費等への充当を予定している分(3.3兆円)を加えた。</p> <p>○[ ]内は、年金積立金管理運用独立行政法人における市場運用分について、株式等の評価損益も運用収入に含める時価ベースで評価したものであり、現金ベースの収支を示す厚生年金の特別会計の決算とは異なる。 なお、時価ベースの評価には、旧年金福祉事業団から承継した資産(承継資産)に係る損益を含めており、承継資産に係る損益の厚生年金・国民年金への按分は、厚生年金・国民年金の積立金の元本平均残高の比率により行っている。</p>										

(2) 被保険者数及び受給者数

		被保険者数 千人	受給者数				
			千人	千人	千人	千人	千人
実績	平成18年度末	33,794	24,043	11,234	8,169	356	4,284
	平成19年度末	34,570	25,226	11,725	8,728	360	4,414
将来見通し (平成16年財政再計算)		32,200	25,500	11,500	9,000	400	4,600
差の主な要因		○景気の影響による被保険者数の増加。					

		新規加入者数 千人	新規裁定者数				
			千人	千人	千人	千人	千人
実績	平成18年度		1,673	701	653	29	290
	平成19年度		2,017	878	815	29	295
将来見通し (平成16年財政再計算)							
差の主な要因							

		脱退者数 千人	失権者数				
			千人	千人	千人	千人	千人
実績	平成18年度		643	281	186	19	156
	平成19年度		681	295	199	20	167
将来見通し (平成16年財政再計算)							
差の主な要因							

特記事項	○新規加入者及び脱退者に関する実績統計及び推計値並びに新規裁定者数及び失権者数に関する推計値はない。 ○将来見通しは年度間平均値である。
------	---

(3) 財政指標の比較

○年金扶養比率

決算結果（実績）

	年金扶養比率		①		②	
	① — ②		年度末被保険者数		年度末老齢年金受給者数	
				対前年伸び率		対前年伸び率
平成15年度	注 3.00 (3.19)	千人	%	千人	注	%
16	2.91 (3.10)	32,121	△ 0.1	10,690 (10,074)		5.4 (5.3)
17	2.87 (3.04)	32,491	1.2	11,167 (10,490)		4.5 (4.1)
18	2.82 (3.01)	33,022	1.6	11,523 (10,852)		3.2 (3.4)
19	2.82 (3.01)	33,794	2.3	11,984 (11,234)		4.0 (3.5)
19	2.74 (2.95)	34,570	2.3	12,596 (11,725)		5.1 (4.4)

注：年金扶養比率の（ ）内は、年度末老齢年金受給者を用いて算出したものである。  
年度末老齢年金受給者数の（ ）内は年度末老齢年金受給者数である。

平成16年財政再計算結果

	年金扶養比率		①		②	
	① — ②		被保険者数		老齢年金受給者数	
				対前年伸び率		対前年伸び率
平成17年度		百万人	%	百万人		%
18	3.0	32.3	△ 0.0	10.6		3.7
19	2.9	32.2	△ 0.1	11.1		4.0
20	2.8	32.2	△ 0.3	11.5		4.3
21	2.7	32.0	△ 0.4	12.0		4.5
21	2.5	31.9	△ 0.5	12.6		4.4

注：被保険者数及び老齢年金受給者数は年度間平均値である。

【参考】年金扶養比率を補完する指標（年金種別費用率）

	年金種別費用率			年金種別費用率の総合費用率に対する構成割合		
	老齢費用率	障害費用率	遺族費用率	老齢費用率	障害費用率	遺族費用率
				%	%	%
平成15年度	10.0 <12.0>	0.2 <0.2>	2.4 <2.9>	58.0	0.9	13.8
16	10.2 <12.2>	0.2 <0.2>	2.5 <3.0>	57.5	0.9	14.1
17	10.2 <12.2>	0.2 <0.2>	2.5 <3.0>	57.1	0.9	14.3
18	10.0 <12.0>	0.2 <0.2>	2.6 <3.1>	56.3	0.8	14.5
19	9.9 <11.8>	0.1 <0.2>	2.6 <3.1>	55.4	0.8	14.7
15*	10.8 <12.9>	0.2 <0.2>	2.4 <2.9>	59.5	0.9	13.2
16*	11.0 <13.2>	0.2 <0.2>	2.5 <3.0>	59.3	0.9	13.4
17*	11.1 <13.3>	0.2 <0.2>	2.5 <3.0>	59.4	0.8	13.6
18*	10.8 <12.9>	0.2 <0.2>	2.6 <3.1>	58.2	0.8	13.9
19*	10.7 <12.8>	0.1 <0.2>	2.6 <3.1>	57.6	0.8	14.0

注：独自給付費用率について、年金種別別に算出したものである。  
 平成15年度から総報酬制となっている（<>は、標準報酬月額をもとに算出したものである。）。  
 \*は厚生年金基金の代行部分を補正したもの。



○総合費用率

決算結果（実績）

	総合費用率	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
	$\frac{①-⑥}{②} \times 100$	実質的な支出 <sup>③・④・⑤・⑦・⑧・⑨</sup>	標準報酬総額（注3）	給付費（注4）	基礎年金拠出金	その他拠出金	国庫・公経済負担	追加費用	基礎年金交付金	その他交付金等収入（注1）	賃金上昇率（注2）	物価上昇率
		億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	%	%
平成15年度	17.3 <20.7>	293,410	1,458,725 <1,219,199>	208,140 (194,219)	102,986	-	41,045		13,921	3,795	△ 0.27	△ 0.3
16	17.8 <21.3>	303,667	1,468,506 <1,226,226>	215,380 (199,320)	107,874	-	42,792		16,060	3,527	△ 0.20	0.0
17	17.8 <21.3>	309,881	1,487,083 <1,242,451>	219,863 (200,389)	112,831	-	45,394		19,474	3,339	△ 0.17	△ 0.3
18	17.8 <21.3>	318,629	1,516,357 <1,266,562>	222,541 (202,552)	119,224	-	48,285		19,989	3,147	0.01	0.3
19	17.8 <21.3>	327,673	1,548,385 <1,295,378>	223,179 (204,347)	126,233	-	51,659		18,832	2,907	△ 0.07	0.0
15*	18.1 <21.7>	305,000	1,459,000 <1,219,000>	220,000 (206,000)	103,000	-	41,000		14,000	4,000	△ 0.27	△ 0.3
16*	18.6 <22.3>	316,000	1,469,000 <1,226,000>	228,000 (212,000)	108,000	-	43,000		16,000	4,000	△ 0.20	0.0
17*	18.7 <22.4>	323,000	1,487,000 <1,242,000>	232,000 (213,000)	113,000	-	45,000		19,000	3,000	△ 0.17	△ 0.3
18*	18.6 <22.3>	330,000	1,516,000 <1,267,000>	234,000 (214,000)	119,000	-	48,000		20,000	3,000	0.01	0.3
19*	18.6 <22.2>	340,000	1,548,000 <1,295,000>	236,000 (217,000)	126,000	-	52,000		19,000	3,000	△ 0.07	0.0

注1：その他交付金等収入とは、「国共済連合会等拠出金収入」「職域等費用納付金」のことである。

注2：賃金上昇率は、性・年齢構成の変動による影響を控除した標準報酬上昇率である。

注3：平成15年度から総報酬制となっている(< >)は、標準報酬月額を基に算出したものである。)

注4：給付費の( )内は基礎年金交付金を控除した後の額である。

注5：\*は、厚生年金基金の代行部分を補正したものである。

平成16年財政再計算結果

	総合費用率	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪
	$\frac{①-⑥}{②} \times 100$	実質的な支出 <sup>③・④・⑤・⑦・⑧・⑨</sup>	標準報酬総額（注1）	給付費	基礎年金拠出金	その他拠出金	国庫・公経済負担	追加費用	基礎年金交付金	その他交付金等収入	賃金上昇率	物価上昇率
		兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	%	%
平成17年度	18.5	31.7	146.9	20.6	11.1		4.6			0.0	1.3	0.5
18	18.8	32.7	149.2	21.4	11.3		4.6			0.0	2.0	1.2
19	19.0	33.5	152.0	22.0	11.5		4.7			0.0	2.3	1.5
20	19.3	34.7	155.0	22.8	12.0		4.8			0.0	2.7	1.9
21	18.8	36.3	158.0	23.7	12.6		6.6			0.0	2.1	1.0

注1：平成15年度から総報酬制となっている。

注2：再計算結果の給付費は、基礎年金交付金を控除した後の額である。

○独自給付費用率

決算結果（実績）

	独自給付 費用率	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	$\frac{①-⑤}{②} \times 100$	実質的な 支出③・④・⑤ ③・④・⑤	標準報酬総 額（注3）	給付費 （注4）	基礎年金 拠出金	基礎年金 拠出金 （国庫・公経 済負担分除 く）	その他拠出 金	国庫・公 経済負担	追加費 用	基礎年金 交付金	その他交 付金等収 入（注1）	賃金上昇 率（注2）	物価上昇 率
		億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	%	%
平成15年度	12.6 <15.1>	293,410	1,458,725 <1,219,199>	208,140 (194,219)	102,986	68,657	-	41,045		13,921	3,795	△ 0.27	△ 0.3
16	12.9 <15.4>	303,667	1,468,506 <1,226,226>	215,380 (199,320)	107,874	71,710	-	42,792		16,060	3,527	△ 0.20	0.0
17	12.9 <15.4>	309,881	1,487,083 <1,242,451>	219,863 (200,389)	112,831	73,246	-	45,394		19,474	3,339	△ 0.17	△ 0.3
18	12.8 <15.3>	318,629	1,516,357 <1,266,562>	222,541 (202,552)	119,224	76,728	-	48,285		19,989	3,147	0.01	0.3
19	12.6 <15.1>	327,673	1,548,385 <1,295,378>	223,179 (204,347)	126,233	80,334	-	51,659		18,832	2,907	△ 0.07	0.0
15*	13.4 <16.0>	305,000	1,459,000 <1,219,000>	220,000 (206,000)	103,000	69,000	-	41,000		14,000	4,000	△ 0.27	△ 0.3
16*	13.7 <16.4>	316,000	1,469,000 <1,226,000>	228,000 (212,000)	108,000	72,000	-	43,000		16,000	4,000	△ 0.20	0.0
17*	13.8 <16.5>	323,000	1,487,000 <1,242,000>	232,000 (213,000)	113,000	73,000	-	45,000		19,000	3,000	△ 0.17	△ 0.3
18*	13.5 <16.2>	330,000	1,516,000 <1,267,000>	234,000 (214,000)	119,000	77,000	-	48,000		20,000	3,000	0.01	0.3
19*	13.4 <16.1>	340,000	1,548,000 <1,295,000>	236,000 (217,000)	126,000	80,000	-	52,000		19,000	3,000	△ 0.07	0.0

注1：その他交付金等収入とは、「国共済連合会等拠出金収入」「職域等費用納付金」のことである。

注2：賃金上昇率は、性・年齢構成の変動による影響を控除した標準報酬上昇率である。

注3：平成15年度から総報酬制となっている（<>は、標準報酬月額額の総額をもとに算出したものである。）。

注4：給付費の（ ）内は基礎年金交付金を控除した後の額である。

注5：\*は、厚生年金基金の代行部分を補正したものである。

平成16年財政再計算結果

	独自給付 費用率	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	$\frac{①-⑤}{②} \times 100$	実質的な 支出③・④・⑤ ③・④・⑤	標準報酬総 額（注1）	給付費	基礎年金 拠出金	基礎年金 拠出金 （国庫・公経 済負担分除 く）	その他拠出 金	国庫・公 経済負担	追加費 用	基礎年金 交付金	その他交 付金等収 入	賃金上昇 率	物価上昇 率
		兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	%	%
平成17年度	13.5	31.7	146.9	20.6	11.1	7.3		4.6			0.0	1.3	0.5
18	13.8	32.7	149.2	21.4	11.3	7.4		4.6			0.0	2.0	1.2
19	14.0	33.5	152.0	22.0	11.5	7.6		4.7			0.0	2.3	1.5
20	14.2	34.7	155.0	22.8	12.0	7.9		4.8			0.0	2.7	1.9
21	14.6	36.3	158.0	23.7	12.6	6.6		6.6			0.0	2.1	1.0

注1：平成15年度から総報酬制となっている。

注2：再計算結果の給付費は、基礎年金交付金を控除した後の額である。

○収支比率

決算結果（実績）

	収支比率	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
	$\frac{①-⑤}{⑨+⑩} \times 100$	実質的な支出②・③・④ ⑥・⑦・⑧	給付費 (注4)	基礎年金 拠出金	その他 拠出金	国庫・公 経済負担	追加費用	基礎年金 交付金	その他交 付金等収 入(注1)	保険料収 入	運用収入	賃金 上昇率 (注2)	物価 上昇率	運用 利回り
		億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	%	%	%
平成15年度	117.2	293,410	208,140	102,986	-	41,045		13,921	3,795	192,425	22,884	△ 0.27	△ 0.3	-
[時価ベース]	[98.3]		(194,219)							[64,232]				[4.91]
16	123.8	303,667	215,380	107,874	-	42,792		16,060	3,527	194,537	16,125	△ 0.20	0.0	-
[時価ベース]	[112.7]		(199,320)							[36,934]				[2.73]
17	120.8	309,881	219,863	112,831	-	45,394		19,474	3,339	200,584	18,298	△ 0.17	△ 0.3	-
[時価ベース]	[90.4]		(200,389)							[91,893]				[6.82]
18	114.8	318,629	222,541	119,224	-	48,285		19,989	3,147	209,835	25,708	0.01	0.3	-
[時価ベース]	[107.0]		(202,552)							[42,790]				[3.10]
19	116.8	327,673	223,179	126,233	-	51,659		18,832	2,907	219,691	16,582	△ 0.07	0.0	-
[時価ベース]	[161.4]		(204,347)							[△48,705]				[△3.54]
15*	[97.1]	305,000	220,000	103,000	-	41,000		14,000	4,000	202,000	[70,000]	△ 0.27	△ 0.3	・
			(206,000)											
16*	[112.3]	316,000	228,000	108,000	-	43,000		16,000	4,000	202,000	[41,000]	△ 0.20	0.0	・
			(212,000)											
17*	[88.5]	323,000	232,000	113,000	-	45,000		19,000	3,000	210,000	[104,000]	△ 0.17	△ 0.3	・
			(213,000)											
18*	[104.1]	330,000	234,000	119,000	-	48,000		20,000	3,000	219,000	[52,000]	0.01	0.3	・
			(214,000)											
19*	[148.5]	340,000	236,000	126,000	-	52,000		19,000	3,000	228,000	[△34,000]	△ 0.07	0.0	・
			(217,000)											

注1：その他交付金等収入とは、「国共済連合会等拠出金収入」「職域等費用納付金」のことである。

注2：賃金上昇率は、性・年齢構成の変動による影響を控除した標準報酬上昇率である。

注3：上記の[ ]内は、年金積立金管理運用独立行政法人における市場運用分について、株式等の評価損益も運用収入に含める時価ベースで

評価したものであり、現金ベースの収支を示す厚生年金の特別会計の決算とは異なる。

なお、時価ベースの評価には、旧年金福祉事業団から承継した資産（承継資産）に係る損益を含めており、承継資産に係る損益の

厚生年金・国民年金への按分は、厚生年金・国民年金の積立金の元本平均残高の比率により行っている。

注4：給付費の( )内は基礎年金交付金を控除した後の額である。

注5：平成17年度以降の運用収入には、年金積立金管理運用独立行政法人納付金を含めている。

注6：\*は、厚生年金基金の代行部分等を補正したものである。

平成16年財政再計算結果

	収支比率	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
	$\frac{①-⑤}{⑨+⑩} \times 100$	実質的な支出②・③・④ ⑥・⑦・⑧	給付費	基礎年金 拠出金	その他拠 出金	国庫・公 経済負担	追加費用	基礎年金 交付金	その他交 付金等収 入	保険料収 入	運用収入	賃金 上昇率	物価 上昇率	運用 利回り
		兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	%	%	%
平成17年度	114.3	31.7	20.6	11.1		4.6			0.0	20.8	3.0	1.3	0.5	1.81
18	111.5	32.7	21.4	11.3		4.6			0.0	21.6	3.5	2.0	1.2	2.21
19	108.9	33.5	22.0	11.5		4.7			0.0	22.6	4.0	2.3	1.5	2.51
20	106.1	34.7	22.8	12.0		4.8			0.0	23.5	4.7	2.7	1.9	3.00
21	100.7	36.3	23.7	12.6		6.6			0.0	24.5	4.9	2.1	1.0	3.20

注：再計算結果の給付費は、基礎年金交付金を控除した後の額である。

## ○積立比率

## 決算結果(実績)

	積立比率	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	⑨ ①-⑤	実質的な 支出②+③+④ ⑥-⑦-⑧	給付費 (注4)	基礎年金 拠出金	その他 拠出金 (注1)	国庫・公 経済負担	追加費用	基礎年金 交付金	その他交 付金等収 入(注1)	前年度末積立金	賃金 上昇率 (注2)	物価 上昇率	運用 利回り
		億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	億円	%	%	%
平成15年度	5.5	293,410	208,140	102,986	-	41,045		13,921	3,795	1,377,023	△ 0.27	△ 0.3	-
[時価ベース]	[5.2]		(194,219)							[1,320,717]			[4.91]
16	5.3	303,667	215,380	107,874	-	42,792		16,060	3,527	1,374,110	△ 0.20	0.0	-
[時価ベース]	[5.2]		(199,320)							[1,359,151]			[2.73]
17	5.2	309,881	219,863	112,831	-	45,394		19,474	3,339	1,376,619	△ 0.17	△ 0.3	-
[時価ベース]	[5.2]		(200,389)							[1,382,468]			[6.82]
18	4.9	318,629	222,541	119,224	-	48,285		19,989	3,147	1,324,020	0.01	0.3	-
[時価ベース]	[5.2]		(202,552)							[1,403,465]			[3.10]
19	4.7	327,673	223,179	126,233	-	51,659		18,832	2,907	1,300,980	△ 0.07	0.0	-
[時価ベース]	[5.1]		(204,347)							[1,397,509]			[△3.54]
15*	[6.6]	305,000	220,000	103,000	-	41,000		14,000	4,000	[1,741,000]	△ 0.27	△ 0.3	・
			(206,000)										
16*	[6.4]	316,000	228,000	108,000	-	43,000		16,000	4,000	[1,746,000]	△ 0.20	0.0	・
			(212,000)										
17*	[6.2]	323,000	232,000	113,000	-	45,000		19,000	3,000	[1,713,000]	△ 0.17	△ 0.3	・
			(213,000)										
18*	[6.2]	330,000	234,000	119,000	-	48,000		20,000	3,000	[1,745,000]	0.01	0.3	・
			(214,000)										
19*	[6.0]	340,000	236,000	126,000	-	52,000		19,000	3,000	[1,736,000]	△ 0.07	0.0	・
			(217,000)										

注1：その他交付金等収入とは、「国共済連合会等拠出金収入」「職域等費用納付金」のことである。

注2：賃金上昇率は、性・年齢構成の変動による影響を控除した標準報酬上昇率である。

注3：上記の〔〕内は、年金積立金管理運用独立行政法人における市場運用分について、株式等の評価損益も運用収入に含める時価ベースで評価したものであり、現金ベースの収支を示す厚生年金の特別会計の決算とは異なる。

なお、時価ベースの評価には、旧年金福祉事業団から承継した資産(承継資産)に係る損益を含めており、承継資産に係る損益の厚生年金・国民年金への按分は、厚生年金・国民年金の積立金の元本平均残高の比率により行っている。

注4：給付費の( )内は基礎年金交付金を控除した後の額である。

注5：\*は、厚生年金基金の代行部分等を補正したものである。

## 平成16年財政再計算結果

	積立比率	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	⑨ ①-⑤	実質的な 支出②+③+④ ⑥-⑦-⑧	給付費	基礎年金 拠出金	その他拠 出金	国庫・公 経済負担	追加費用	基礎年金 交付金	その他交 付金等収 入	前年度末積立金	賃金上 昇率	物価上 昇率	運用利回 り
		兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	兆円	%	%	%
平成17年度	6.2	31.7	20.6	11.1		4.6			0.0	167.5	1.3	0.5	1.81
18	5.8	32.7	21.4	11.3		4.6			0.0	163.9	2.0	1.2	2.21
19	5.6	33.5	22.0	11.5		4.7			0.0	160.8	2.3	1.5	2.51
20	5.3	34.7	22.8	12.0		4.8			0.0	158.3	2.7	1.9	3.00
21	5.3	36.3	23.7	12.6		6.6			0.0	156.4	2.1	1.0	3.20

注：再計算結果の給付費は、基礎年金交付金を控除した後の額である。